

島しょ部の中晩生柑橘産地と期待の新品種

産地の再生を担う中晩生柑橘品種の安定生産に向けて

よんぱんかん

四晩柑と呼ばれるネーブル、伊予柑、八朔、甘夏の消費や生産量は著しく減少し、平成15年の4種平均卸売り単価(1kg)は190円と低迷している。価格の長期低落傾向はここ30年変わることなく、採算ベースをも割る状態が続いているため、高収益が期待される品種を模索している。

低迷した産地の現状を打開するために平成6年頃から順次導入された味の良い「デコポン」、 「はるみ」は350円以上の高単価で取引され栽培面積も増加しているが、樹勢衰弱による品質低下や隔年結果性が強いことが問題となっている。

当研究室は、これらを解決するために「デコポン」の安定生産のポイントとなる樹冠上部摘果法を開発し、実証展示を行っている。また、「はるみ」においては主枝交互結実、樹別交互結実法を用いて樹体栄養生理面からの要因解明を目指

して研究を進めている。

本県での栽培に適し、今後消費の伸びが期待される品種としては、さわやかな甘味の「はるか」(写真左上)や2月が食べ頃で外観が美しく食味、香りが良い「麗紅」(写真中央)があげられる。清見とウイキングを交配し、香りと食味の良い「たまみ」(写真右下)も平成16年9月30日に登録され、近いうちに苗木の販売が予定されている。

また、当センターで育種されている中晩生品種も結実期に達し、広島オリジナルの新品種の誕生が期待される。

柑橘研究室は今後とも新規登録品種の本県の気象や土壌条件への適応性を明らかにするとともに、高品質・安定生産技術の開発に取り組み、産地再生に貢献していきたい。

柑橘研究室長 松本 要

シュッコンカスミソウの開花促進法

シュッコンカスミソウ'ニューフェイス'を9月上旬に定植する作型では、一般的に暗期中断による電照栽培が行われています。この電照栽培において、従来法よりも開花が揃い、早くなる方法を開発しました。

①電照は、摘心15日後から始めます。定植日や摘心日から電照を開始するよりも開花がよく揃います。

②長日処理は、電照開始日から21時間日長で行います。従来の暗期中断よりも7～15日開花が促進できます。

③21時間日長は、電照開始から10日間だけ行い、以後は従来と同様の暗期中断を行います。21時間日長は10日間処理で、十分な開花促進効果があります。

(花き栽培研究部)

電照方法	9月			10月			11月			12月			
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
慣行法	9/10 定植	9/20 摘心	10/5 電照開始	暗期中断									収穫
開発した方法			15日間	21時間日長	暗期中断							収穫	

開発した新しい電照方法

(暗期中断:午後10時～午前2時照明, 21時間日長:午後5時～10時30分, 午前1時30分～7時照明)

だれでも楽に運べるミカン育苗用軽量培養土

県内のカンキツ産地では、消費者ニーズの高い温州ミカン「石地」への品種更新をスムーズに行うために、大苗による改植が推進されています。これまでも大苗育苗は一部で行われていましたが、1本の苗木は20kg余りと重く、軽量化が強く求められていました。

そこで、このたび20L当たり8kgの軽量培養土(粉碎もみ殻と樹皮堆肥を等量混合したもの)を開発しました。この培養土、保水シートおよび被覆肥料を利用した場合、従来法と比べて苗木の大きさは1.3倍に育ちます。重さは約半分となり、大苗の運搬作業は30%省力化され、だれでも楽に運ぶことができます。

ただし、育苗コストは従来法よりも1割高くなります。

(常緑果樹研究室)



1年間育苗した「石地」苗木
左: 軽量培養土で育苗
右: 従来培養土で育苗

軽量培養土で育成した苗木は楽々と運搬できます

イチゴの育苗を省略する「株据置栽培」技術

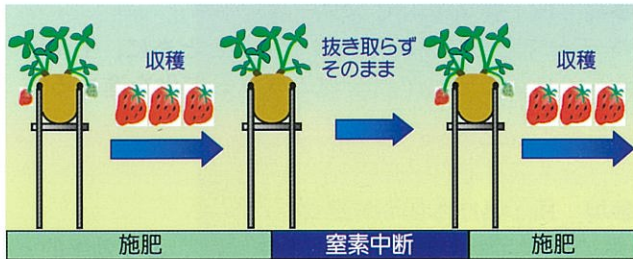
イチゴ栽培では、収穫終了後に生産株を抜き取る作業や、次作の生産株を確保する育苗作業が行われています。これらの作業は、約400時間の労働時間を要するため、その省力化が望まれています。そこで、高設栽培において、これらイチゴの育苗作業を省略する「株据置栽培」技術の開発を行っています。

収穫終了後のイチゴ株を栽培床にそのまま据え置いて、次作の生産株として利用します。収

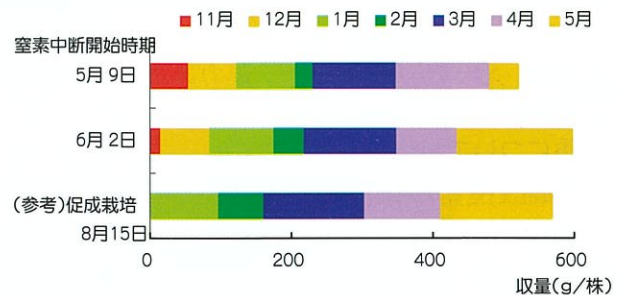
穫終了後は、液肥による施肥を中断してかん水だけを行い（窒素中断）、花芽分化確認後に施肥を再開します。窒素中断の開始を6月上旬までに行うことで、11月から収穫が可能となり、慣行栽培と同等の収量が得られます。

「株据置栽培」での窒素中断期間に要する作業時間は約300時間/10aで、慣行育苗の同時期に要する作業時間の約3分の1に短縮できます。

(野菜栽培研究部)



イチゴの株据置栽培の概要



株据置栽培における月別規格品収量

ナシ「愛甘水」の胴枯性病害を軽減するには

ナシ「愛甘水」は、盆前に有利な販売ができて新品種として注目されています。

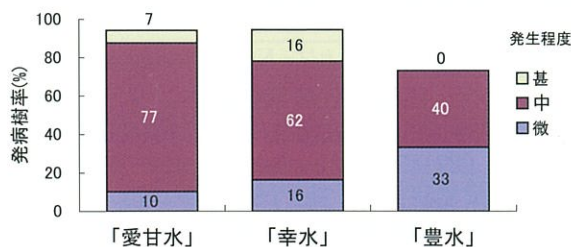
「愛甘水」の特性を調査したところ、胴枯性病害にかかりやすいことがわかりました。この病気は「幸水」にも発生しやすく、樹を枯らしてしまいます。地上から1m程度の範囲の「愛甘水」の主幹部に発生した胴枯性病害による被害は、「幸水」と同程度の高い発病がみられ、「豊水」に比べて重症化しやすい傾向でした。

また、樹体の生育（幹周）は、胴枯性病害の発生程度に関係なく3品種の中で、「愛甘水」が最も短くなっていました。

このことから、本品種の栽培にあたっては、必要以上の多肥栽培を避けることや排水対策を行うなど、胴枯性病害の軽減対策を他品種以上に徹底する必要があります。

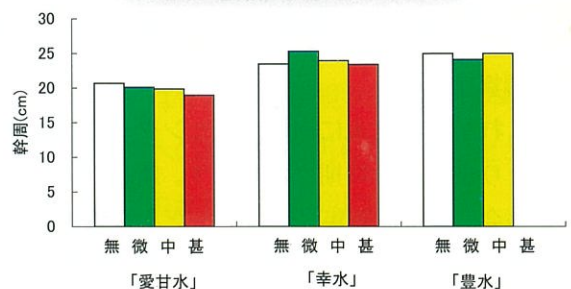
(落葉果樹研究室)

愛甘水は胴枯性病害に弱い



ナシ品種別の胴枯性病害の発病樹率

愛甘水は生育量が少ない



胴枯性病害の発生程度と各品種の幹周(5年生)

農産物種子の貯蔵施設「農業ジーンバンク」を紹介します

(財)広島県農林振興センター農業ジーンバンクは、遺伝資源の保存と再利用を目的に平成元年に設立されました。貯蔵種子点数は約18,000(稲類:7,600, 麦類:2,900, 豆類:1,600, 雑穀・特用作物:1,000, 飼料作物:2,400, 野菜類:2,500等)です。研究機関以外での昨年度の利用点数は豆類, 野菜類を中心に135点でした。今後も積極的にご活用ください(Tel & Fax 082-429-2599)。

◆ジーンバンクで保存している特徴のある品種(10) ー高機能性の味噌, 煮豆, 豆腐原料として期待される赤大豆「赤」ー

大豆の中で外皮色の赤いものは珍しいが、ジーンバンクで保存している赤大豆は十数種類ある。外皮色や子実の大きさにはかなりの変異が見られる中で、この「赤」は外皮色濃く、裂皮少なく、子実重は「アキシロメ」よりやや重い中生の多収品種である。

外皮色が濃赤色(子葉色は黄)であるため、味噌への加工や煮豆としての利用に適する。また、豆腐に加工した場合、淡いピンク色の豆腐が出来るため、白や淡緑色(青大豆の豆腐)とのコンビで売るのも面白いと思われる。

東広島での播種適期は6月中旬で、その場合の収穫期は10月下旬となる。

(農業ジーンバンク: 船越建明)



赤



アキシロメ

◆農業技術センター第37回研究成果発表会を開催します

●日 時:平成17年3月10日(木)10:00~15:30 ●場 所:農業技術センター講堂

●内 容:『広島ブランド, 魅力ある食と彩りの創出』をテーマとして, 研究成果の発表とともに, 生産現場や行政施策の現状を紹介します。また, 流通・消費関係者を交えて県産農産物のブランド化を進める方策について討論します。

◆農業改良普及事業実績発表会が開催されます

●日 時:平成17年2月15日(火)10:30~15:30 ●場 所:県庁本館6階講堂

●内 容:企業の経営体育成, 1億円産地育成など普及員の指導活動事例7題を発表・検討し, より効率的・効果的な活動をめざします。

◆広島バイオテクノロジー推進協議会研究成果発表会が開催されます

●日 時:平成17年3月18日(金)10:30~15:00(予定) ●場 所:農業技術センター講堂

※いずれの発表会もどなたでも聴講できます。皆様お誘い合わせのうえ, どうぞお出かけください。

◆ようこそ農業技術センターへ (10~12月の来所者紹介)

◎10月29日:全日本そ菜原種審査会ハクサイ(中生)が開催され, 関係者32名が参加されました。野菜栽培研究部圃場で栽培された25品種のうち上位入賞品種は, たびたびの台風の影響を受けたにもかかわらず高得点を獲得しました。

◎10月29日:布野村園芸振興協議会会員20名が土壌と肥料に関する研修をされました。

◎11月16日:農彩館五日市ファーマーズマーケット出荷組合員60名が, 野菜, 花きの栽培圃場を見学されました。

◎12月16日:新品種の選定と栽培法の検討を行うカンキツ品種部会が, 果樹振興対策会議の主催により, 果樹研究所柑橘研究室で開催されました。参加者27名は, 新品種を中心に着果状況を検討した後, 20品目を試食し, 有望品種について栽培特性や現地適応性および振興対策について論議しました。

◎12月20日:東広島市トルコギキョウ栽培農家15名が, 農技センターの開発した種子低温処理効果の高い品種の試験圃場を見学されました。

※視察・見学等は随時, 全所で受け付けています。お気軽にお問い合わせください。



∞ 編集後記 ∞

これから年度末に向け, 当センターでは試験成績のとりまとめの時期になります。新しい成果は成果発表会, 成果情報集, センターだより等で順次紹介します。また, 3月には研究テーマの素材を募集します。皆様からのご意見・ご要望をお寄せください。

農業技術センターだより No.77 平成17年1月25日

発行 広島県立農業技術センター
〒739-0151 東広島市八本松町原6869
Tel 082-429-0521 Fax 082-429-0551
果樹研究所 Tel 0846-45-1225
柑橘研究室 Tel 0848-68-0131

<http://wwwarc.f-net.naka.hiroshima.jp/>
e-mail: ngckikaku@pref.hiroshima.jp

お問い合わせ, ご意見は企画情報部Tel 082-429-0552までお寄せください。センターホームページ, eメールでもお待ちしております。

